

えんちょう通信

No.34

令和 3年 1月15日
福島市立清水幼稚園
発行者 佐藤 一男

今年も、子どもたち一人一人を大事に育てていきます



【こま、回せたよ。】

あけましておめでとうございます。

今年も、例年よりも少し遅い3学期のスタートとなりましたが、子どもたちの明るい笑顔と歓声が幼稚園に戻りました。本当にうれしくなります。

なかなか先の見えない状況が続いていますが、子どもたちの笑顔を見ると、それも乗り越えられるような気がしてきます。未来に生きる子どもたちには、人を勇気づけたり、社会を明るくしたりする力があります。みんなで大事に育てていかなければならないと思っています。

今年も全職員8名、力を合わせて、子どもたちの保育、教育に当たっていきます。よろしくをお願いします。

令和3年度の教育の計画

幼稚園では、今、来年度の教育計画を作っています。文部科学省の幼稚園教育要領には、「社会に開かれた教育課程」という考えが大切だと書かれています。それは、幼稚園の教育を園の中だけに閉じずに、社会とのかかわりの中で、子どもたちに「自らの人生をたくましく切り拓いていく」力を育んでいこうというものです。このような考えのもと、清水幼稚園では、次の点に重点を置いて、令和3年度の教育計画を作成していきます。

- ◎ 幼児が進んで『よい生活習慣・学びの習慣』を身につける
 - 遊びや生活の中で、よい生活習慣・学びの習慣を進んで身につけるよう丁寧に援助する。
・『挨拶 返事 さわやかな応答』の習慣 ・絵本を見たり読んだりする習慣など
- ◎ 豊かな体験活動を展開し、幼児の『主体性』を育てる
 - 幼児がその日の活動や思いを言葉にして共有する場と時間をつくる。
 - 小学校との日常的なかかわりを深める。 (例)「小学校探検に行こう」
 - 飯坂線の電車を活用し、世界を広げる。 (例)「美術館に絵を観に行こう」
 - 地域の自然環境を生かした保育を進める。 (例)「山岸農園でぶどう狩りをしよう」
 - 地域の文化に触れる機会をもつ。 (例)「八幡神社に遊びに行こう」
 - 体験活動を振り返り、次の活動へつなぎ、発展させる工夫をする。
- ◎ 『保育の質の向上』を図る
 - 保育を振り返り、保育の改善を進める。(リフレクション)
《保育改善の方向性》 『幼児の可能性を信じる眼差しと丁寧な応答』
 - 保護者や地域の方々の方々のボランティアを積極的に活用する。
 - こぐまの会(子育てサークル)の活動を支援し、充実する。
 - 保育活動の様子を園外に積極的に発信する。

保護者のみなさま、地域の方々にも次年度の清水幼稚園の教育の方向性をご理解いただき、同じ思いで子どもたちにかかわっていただければと考えています。